

魅力にあふれ、活力のある創造都市

高松市創造都市推進ビジョン

－ 総論 －



平成25年10月

高松市



目次

第1章 ■ はじめに	1
1 目的	1
2 創造都市とはなにか	1
3 ビジョンの期間	4
4 ビジョンの構成	4
5 創造都市推進のイメージ	4
第2章 ■ 現況認識と課題の整理	6
1 地域の歴史・動向	6
2 高松市の上位計画・関連計画	10
3 7つの創造都市政策指標から見る高松市の課題	12
第3章 ■ 課題解決のための戦略	14
1 高松が目指す3つの将来像	14
2 3つの将来像を実現するための戦略	15
第4章 ■ 創造的アプローチ	16
1 場の創出	16
2 創造的人材の集積	17
3 編集・発信	17
第5章 ■ 推進に当たっての留意点	18
1 P D C Aサイクルによる進行管理	18
2 行政および民間双方における推進体制の拡充	18
3 段階的な社会実験実施による試行錯誤の挑戦	18
4 創造都市政策を実現する戦略的な財源確保	18
5 本ビジョンの見直し	18
資料編	19



第1章 はじめに

1 目的

現在、我が国は、国全体がこれまで経験したことのない人口減少、少子超高齢社会に突入しており、都市の内部では、自治会等の従来型コミュニティの崩壊が進んでいるほか、経済の急速なグローバル化によって、新興国が大きな成長を見せる一方で、国内経済の減速と相対的地位の低下が否めなくなるなど、大きな時代の転換期にあります。

このような状況下で、我が国では、大量生産・大量消費を旨とする20世紀型社会が行き詰まりを見せるとともに、疲弊する都市の再生が喫緊の課題となっていますが、ヨーロッパなどでは、都市に集まる人々の技術や文化が都市に付加価値を与え、創造的で内発的な発展を遂げる「創造都市」が各地に根付き始めています。

ポスト工業化社会における都市の再生をいかに図っていくかに当たっては、この「創造都市」という、創造性あふれる都市、特に文化面において活力があふれ、ブランド力のある都市を目指したまちづくりという方向性は、非常に重要であり、本市においても、このようなまちづくりを実践していくべきであると考えます。

このようなことから、産業、ものづくり、観光、文化・スポーツ、国際交流などに関する施策を一体的に推進することにより、高松の都市ブランドイメージの向上を積極的かつ効果的に図りながら、「瀬戸の都・高松」の魅力を全世界に発信していくため、総合的かつ基本的な指針となる「高松市創造都市推進ビジョン」を策定するものです。

2 創造都市とはなにか

「創造都市」とは、それぞれの都市の個性や特徴を生かした上で、概ね次のような条件を満たすものです。

- 市民による、新たな活動が多数発生している都市
- 文化と産業の創造性に富んでいる都市
- 脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備えている都市
- 世界的な環境問題や、局地的な地方特有の課題に対して、新しい方法で問題解決を行えるような「創造の場」に富んでいる都市



市民一人一人が創造的に働き、暮らし、活動できる都市

高松らしい創造都市

文化芸術などの持つ創造性を活かしながら、農業なども含めた産業振興や、地域活性化、コンパクトで美しいまちづくりなど、個々の取組の調和のとれた推進を行い、都市的利便性と潤いのある海や田園の穏やかさが共に享受でき、人々が幸せを感じられる、人間中心の都市を目指していきます。



人間中心の都市

潤いのある海や田園の穏やかさ

共に享受

人々が幸せを感じられる

都市的利便性



3 ビジョンの期間

平成25年度から平成29年度までとします。

4 ビジョンの構成

本ビジョンは、各分野の施策・事業を創造的アプローチによって横断的に取り組むとともに、重要課題については官民協働¹による戦略的なプロジェクトを実践するため、将来像と戦略、および施策・事業アイデアを取りまとめるものです。

この「総論」では将来像および戦略を掲げ、「各論」（別冊）では施策・事業アイデアを取りまとめています。

5 創造都市推進のイメージ

3つの戦略「**独創指向**：独創的な高松ブランドを編集する戦略」「**世界指向**：世界に向けてグローバル²にひらく戦略」「**未来指向**：未来に向けてゆるやかに連携し、段階的に取り組む戦略」を通じて、創造都市推進局を中心に、文化や産業などの政策・事業に取り組んでいきます。また、こどもや福祉、環境、都市整備などについても柔軟かつ横断的に全市を挙げて取り組みます。

1 官民協働

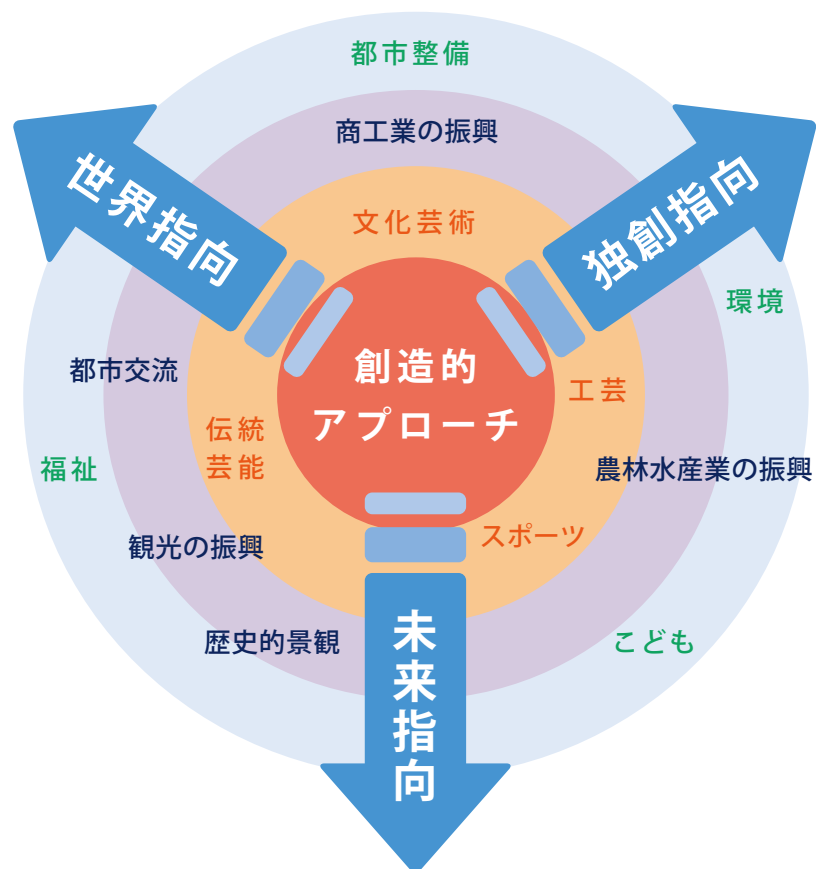
官庁（役所）と民間がともに力を合わせて活動すること。

2 グローバル

世界的な規模であるさま。



第5次高松市総合計画
『文化の風かおり 光かがやく 瀬戸の都・高松』



魅力にあふれ、活力のある創造都市



「創造性豊かな海園・田園・人間都市」の実現

第2章 現況認識と課題の整理

1 地域の歴史・動向



史跡高松城跡 長櫓

① 日本三大水城のひとつである 高松城を中心とした城下町と文化土壌の形成

- 天正16年 | 豊臣秀吉の家臣生駒親正（いこま ちかまさ）による高松城築城／生駒家による城下町の整備／高松松平家による城下町の拡大と産業振興
- ・北は瀬戸内海に面し、三重の堀に囲まれた水城，その南側に城下町の広がりを見せる，海に開かれた都市の形成
 - ・高松城の大手門門前に開かれた城下町には，丸亀町を始めとする商人町や職人町などが形成される
 - ・栗林公園や法然寺などの歴史遺産が造られたほか，茶道，華道，俳諧など文化も発展し，産業奨励策により，漆芸，保多織，理平焼，桐下駄，円座，提灯，松盆栽，張子，獅子頭などのものづくりが盛んになる

② 明治から昭和初期の動向

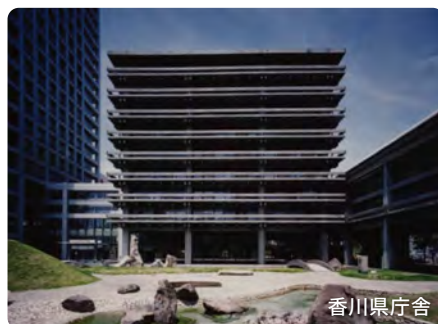
- 明治23年 | 香川県の県庁所在地として，全国40番目の市となる
- 明治31年 | 全国で3番目の工芸高校を設立
- ・江戸時代末期に玉楮象谷（たまかじ ぞうこく）によって発展した香川漆芸の伝承
- 明治43年 | 宇野駅と高松駅を結ぶ宇高連絡船の就航
- ・四国の玄関として，国の出先機関や日本銀行の支店を始め，日本を代表する企業の支店が集積する地方都市として発展
- 大正時代 | 本市出身の菊池寛が小説家として活躍
- 昭和初期 |
- ・『父帰る』『恩讐の彼方に』『真珠夫人』等の代表作を発表
 - ・雑誌『文藝春秋』の創刊，芥川賞・直木賞の創立等，実業家としても活躍
- 昭和3年 | 高松市主催による全国産業博覧会を開催
- ・出品総数約15万件，入場者数約48万7千人を集める



- 昭和 9 年 瀬戸内海が、雲仙や霧島とともに我が国で初めての国立公園の一つ（瀬戸内海国立公園）として指定される
- ・明治維新直後に瀬戸内海を訪れた地理学者リヒトホーフェンは「支那旅行日記」の中で、「これ以上のものは世界のどこにもないであろう」と世界中に瀬戸内海を紹介

③ 戦後から昭和後期の動向

- 昭和 24 年 戦後初の公立美術館として、高松市立美術館が栗林公園内に開館（設計：山口文象）
- 昭和 25 年
↓
昭和 49 年 「デザイン知事」と呼ばれた金子正則県知事が、庁内にデザイン室を設置
- ・地域振興や文化振興などにおけるデザイン戦略を研究し、丹下健三を始めとする著名な建築家に建築設計を依頼
- 昭和 30 年 音丸耕堂（香川県出身）が彫漆の分野で、人間国宝に認定される
- 昭和 31 年 イサム・ノグチが初めて牟礼町を訪れる
- ・庵治石とその産地の風土を気に入り、制作に励む。牟礼町のアトリエはその後、「イサム・ノグチ庭園美術館」（平成 11 年開館）として公開
- 磯井如真（香川県出身）が蒔^{きんま}醬の分野で、人間国宝に認定される
- 昭和 36 年 高松市民会館落成
- 昭和 38 年
↓ 「讃岐民具連（さぬきみんぐれん）」の設立・活動
- ・民衆が日常の生活用具として使い続けてきた様々な民具を、より洗練された新しい造形として再生しようという運動
 - ・猪熊弦一郎やイサム・ノグチ、流政之、ジョージ・ナカシマなど世界的なアーティストが高松に集まる
- 昭和 48 年 鎌倉芳太郎（香川県出身）が型絵染の分野で、人間国宝に認定される
- 昭和 53 年
↓ 大平正芳（香川県出身）が内閣総理大臣に就任する
- 昭和 55 年
↓ 「田園都市構想」の中で、多様性のある地域主導の国家建設と、文化の時代の到来を唱える
- 昭和 60 年 磯井正美（香川県出身）が蒔^{きんま}醬の分野で、人間国宝に認定される



④ 最近の動向

- 昭和63年 高松市美術館が移転新装オープン（紺屋町）
瀬戸大橋開通
・一方で宇高連絡船が廃止されるなど、瀬戸内海とつながった港町らしさが消失しているという声もある
- 平成元年 新高松空港開港
- 平成4年 高松～ソウル便の就航
サンクリスタル高松（高松市図書館，菊池寛記念館，歴史資料館）が開館
- 平成6年 太田儔（岡山県出身，高松在住）が蒟醬^{きんま}の分野で，人間国宝に認定される
- 平成11年 高松市が中核市へ移行
- 平成12年 瀬戸内海に面する北浜町の古い倉庫群をリノベーション³した複合商業施設「北浜アリー」オープン
・週末には多くの若者が集い，港の雰囲気味わえる場所
- 平成15年 高松自動車道の全面開通（徳島県鳴門市～愛媛県四国中央市）
- 平成16年 サンポート高松 グランドオープン
- 平成17,18年 高松市と塩江町，牟礼町，庵治町，香川町，香南町，国分寺町が合併
- 平成17年 源平史跡のライトアップと石あかり（石でできた照明器具）を設置した「むれ源平石あかりロード」を開催・継続
- 平成18年 「高松丸亀町壱番街」がオープン（その後，平成22年に「高松丸亀町貳番街」および「高松丸亀町参番街」，平成24年には「丸亀町グリーン」が順次オープン）
・「人が住み，人が集うまち」を目指して中心市街地の再開発に取り組み，通行量は回復傾向にある
「さぬき映画祭」の開催
・香川県を舞台とした映像企画の発掘
「第1回高松国際ピアノコンクール」の開催
・若いピアニストの発掘・育成が目的



高松丸亀町壱番街

3 リノベーション | 刷新。改善。修理。修復。

- 平成 21 年 | イタリアのレッジョ・エミリア市で取り組まれている幼児教育を応用した、アーティストが保育所を訪問・滞在する「保育所への芸術士派遣事業」の実施
- 平成 22 年 | 「瀬戸内国際芸術祭 2010」の開催
 ・瀬戸内海の島々の伝統文化や美しい自然を生かした現代美術を通して、瀬戸内海の魅力を世界に向けて発信
 ・女木島、男木島、大島、直島（直島町）など 7 島と高松港周辺の会場に約 94 万人が来場し、約 111 億円の経済波及効果
 「第 2 回高松国際ピアノコンクール」の開催
 「第 1 回サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～」の開催（以降毎年開催）
- 平成 23 年 | 国内では初めてとなる「アジア太平洋盆栽水石高松大会」の開催
 ・国内だけでなくアメリカ、イギリス、中国などから、4 日間で延べ約 7 万 6 千人が来場
 高松～上海便の就航
- 平成 24 年 | 海と島と街を巡るクラフトフェア「瀬戸内生活工芸祭」の開催
 ・玉藻公園と女木島を会場に、2 日間で 1 万人以上が来場
 「100 年サーカス（瀬戸内サーカスファクトリー）」の開催
- 平成 25 年 | 高松～台北便の就航
 ・ソウル、上海も含めたアジア主要都市との交流が一段と進展することが期待されている
 「瀬戸内国際芸術祭 2013」の開催
 ・新たに 5 つの島が加わる（沙弥島^{しゃみ}（坂出市）、本島（丸亀市）、高見島（多度津町）、粟島（三豊市）、伊吹島（観音寺市））
 山下義人（香川県出身）が^{きんま}蒟醬の分野で、人間国宝に認定される

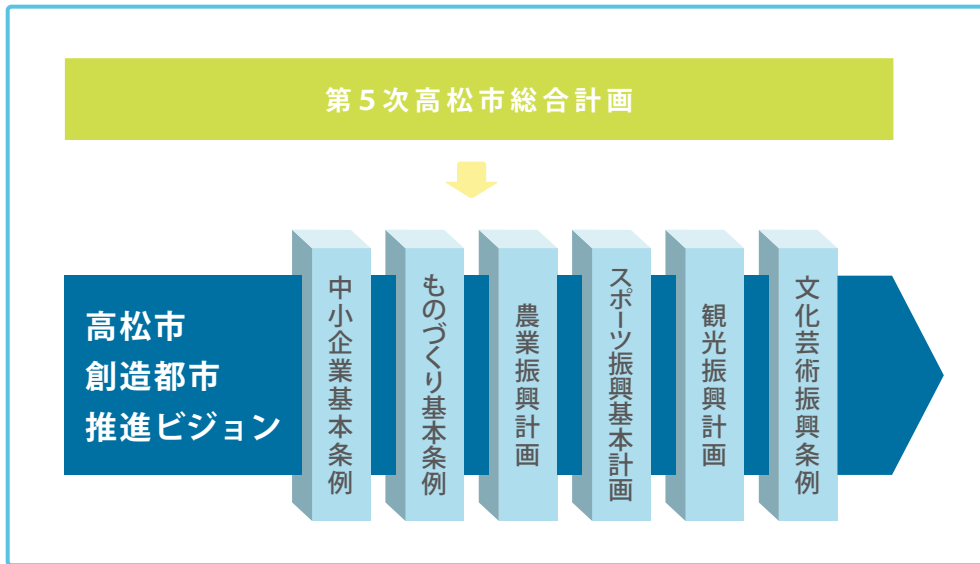


アジア太平洋盆栽水石高松大会



100年サーカス

2 高松市の上位計画・関連計画



● 産業経済政策

農業者の高齢化や耕作放棄地の増加などの厳しい状況が続く中、安全・安心な食料の安定供給や食育⁴、地産地消⁵の推進を始めとする新たな課題への対応が求められており、都市近郊型農業を中心に農業と農地を地域で守り育てるため、平成21年3月に「高松市農業振興計画」を策定し、農作業支援体制整備の推進や、就農者の育成・確保、特産品の育成・振興、耕作放棄地の活用などに取り組んでいます。

また、商業やものづくりなど、地域を支える産業の振興と地域経済の活性化を目的として、中央商店街空き店舗活用支援事業や企業誘致・企業支援による地域産業活性化促進事業、特産品育成・振興事業などに取り組めます。

さらに、伝統的工芸品その他の特産品の生産を始めとするものづくり産業の振興を目的とした「高松市ものづくり基本条例（仮称）」を平成25年度中に制定する予定です。

4 食育

食に関する教育。食料の生産方法やバランスのよい摂取方法、食品の選び方、食卓や食器などの食環境を整える方法、さらに食に関する文化など、広い視野から食について教育すること。

5 地産地消

地元で生産されたものを地元で消費すること。



● 文化・観光・スポーツ政策

平成25年度策定予定の「高松市観光振興計画」では、「香川県や瀬戸内国際芸術祭と連携したブランドづくりとターゲット設定による誘客推進」「高松ならではの歴史文化資源の再発見と受入環境の形成」「利用者・外国人視点による高松の魅力発信」の3つの方向性を基に、「訪れたい、訪れて良かったまち」を目指すこととしています。具体的には、まち歩き型観光の充実や、「懐かしの修学旅行」の企画・推進に取り組みます。

高松市の文化芸術の振興に関する基本理念、施策の基本的な事項を定める「文化芸術振興条例（仮称）」を平成25年度中に制定する予定です。

平成22年3月に策定した「高松市スポーツ振興基本計画」では、市民のニーズに即した効果的・効率的なスポーツ振興施策の展開が求められていることから、スポーツ情報提供方法の拡充・充実や、高松市民スポーツフェスティバルなどスポーツイベント等の充実、地域密着型トップスポーツチームとの連携の実現に取り組むこととしています。スポーツを「文化」という視点から捉え、今後もスポーツの持つ可能性を追求していきます。

また、高松市美術館については、平成21年3月に「高松市立美術館の今後の運営方針」を策定し、高松市美術館および高松市塩江美術館の、より市民に親しまれ魅力ある美術館づくりと効率的な運営を目指して、展覧会の充実や、中央商店街等と連携した情報発信に取り組んでいます。平成25年3月には、文化芸術の発信拠点としての機能強化を基本方針として、「高松市美術館改修基本計画」を策定しました。



3 7つの創造都市政策指標から見る高松市の課題

政策指標の内容	現状と問題点・課題
<p>① 創造的人材</p> <p>芸術家や科学者，技術者・職人など，固定概念にとられない新たな方法で課題解決に取り組むことができる人材の数と活動状態</p>	<p>瀬戸内国際芸術祭やそのボランティアサポーター「こえび隊」への参加等を機に，高松市周辺にU・J・Iターン⁶する芸術家等は増加傾向にあると言われています。</p> <p>一方で本土志向による県外大学への進学等から10～20代の若年層が少なく，また市内の20～40代も，市内に立地する支社への転勤族が多いと言われています。</p>
<p>② 生活の質</p> <p>個人所得と自由時間の豊かさ，文化・娯楽への支出，都市環境とアメニティ⁷の豊かさ</p>	<p>文化芸術に係る資源やイベントは多数あります。また，貯蓄率は全国有数の高さです。</p>
<p>③ 創造産業</p> <p>映像・音楽・メディアアート⁸・工芸などの創造的文化産業の企業数と従事者数</p>	<p>製造業は企業数や従業者数ともに減少傾向にありますが，創造的職種の従業者数は全国の地方圏平均よりやや高くなっています（総務省「創造的人材の定住・交流の促進に向けた事例調査報告書」，平成24年）。</p>
<p>④ 創造支援・インフラストラクチャー⁹</p> <p>大学・専門学校・研究所および劇場・図書館・美術館などの創造支援施設数と活動状態</p>	<p>まちなかを中心に廃校などの空き施設・空き家が増加する中，平成24年8月，四番丁小学校跡施設に創造支援センターなどで構成される四番丁スクエアが開設されました。</p>

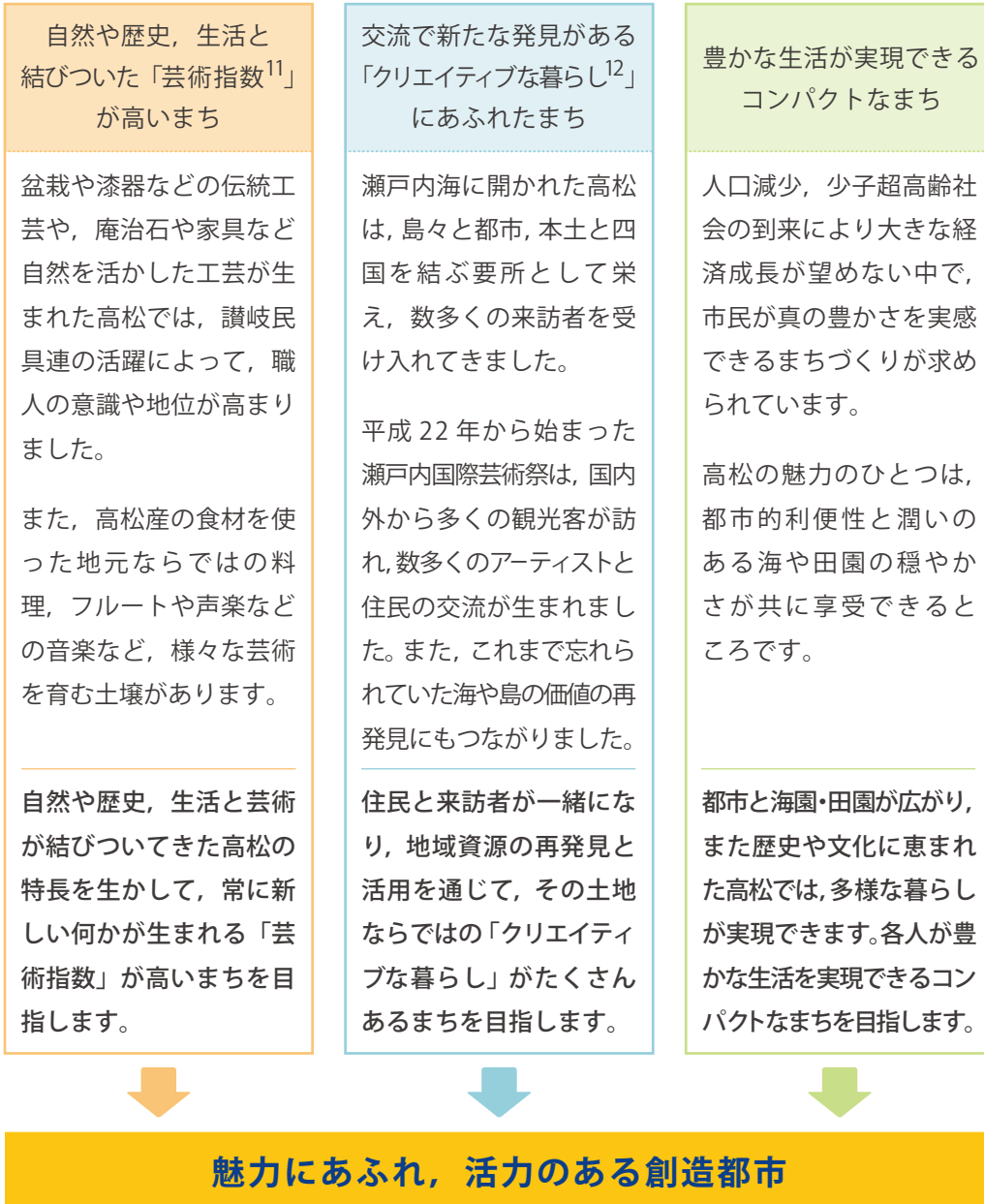


政策指標の内容	現状と問題点・課題
<p>⑤ 文化遺産と文化資本</p> <p>公共部門に登録されている有形無形の文化財の数と保存活用状態</p>	<p>屋島や高松松平家の歴史文化を中心に指定文化財は154, 登録文化財は96と多いものの, 現代的なニーズに対応できる魅力に欠けており, 栗林公園や屋島を訪れる観光客数は減少傾向にあります。</p>
<p>⑥ 市民の活動力</p> <p>NPOの数と活動状態, 女性の政治参加の度合い</p>	<p>NPOや市民団体の活動は活発であり, 平成19年度からはNPOと高松市が協力者・パートナーとして社会的・公益的な課題に取り組む「高松市協働企画提案事業」も実施されています。</p> <p>一方で市民団体同士の連携は少なく, 活動内容が重複しているところもあります。</p>
<p>⑦ 創造的ガバナンス¹⁰</p> <p>都市行政への能動的な市民参加とパートナーシップ, 政策立案能力, 財政自立度, 文化予算の量と質</p>	<p>高松市は平成24年度に創造都市推進局を設立し, 文化・観光・スポーツ政策と産業経済政策の融合を目指しています。</p>

- 6 U・J・Iターン 大都市圏の居住者が地方に移住する動きの総称のこと。Uターンは出身地に戻る形態, Jターンは出身地の近くの地方都市に移住する形態, Iターンは出身地以外の地方へ移住する形態を指す。
- 7 アメニティ 快適性・快適な環境のこと。住みごこちの良さ。
- 8 メディアアート コンピューター・グラフィックス (CG) などのデジタル映像や音響を組み合わせた, 新技術を積極的に活用する新しい芸術表現。
- 9 インフラストラクチャー 上下水道や道路, 教育・文化施設などの社会基盤のこと。
- 10 ガバナンス 統治。日本では, 多くコーポレートガバナンス (企業統治) の意味で使われる。

第3章 課題解決のための戦略

1 高松が目指す3つの将来像



11 芸術指数

社会学者リチャード・フロリダは、ゲイ指数（地域の同性愛人口比率）が高い都市ほど、部外者に対して寛容性が高く、創造的な人材が集まりやすいことを調査データを元に明らかにした。本ビジョンでは、「ゲイ指数」をもじり、「芸（術）指数」（芸術に関わる市民の比率）が大きな都市を目指している。

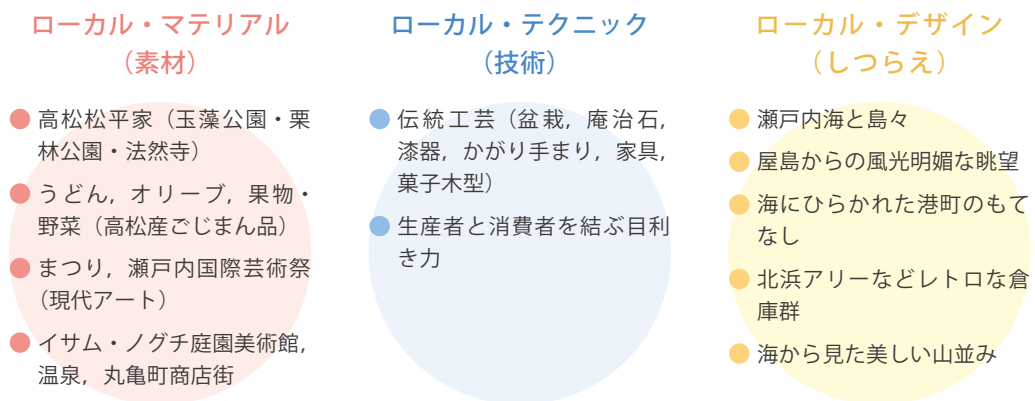
12 クリエイティブな暮らし

「クリエイティブ」とは「創造的、独創的であること」。社会学者リチャード・フロリダは、脱工業化した都市における経済成長の推進力として、「クリエイティブ・クラス」（科学者・芸術家やハイテク・医療・金融などの知識集約型産業で働く専門家などの階級）に着目した。本ビジョンでは、「クリエイティブ・クラス」をもじり、「クリエイティブ・暮らし」（創造的、独創的に生活すること）を目指している。

2 3つの将来像を実現するための戦略

① 独創指向「独創的な高松ブランドを編集する戦略」

3つのローカル（マテリアル／素材，テクニック／技術，デザイン／しつらえ）を再発見し，高松らしさを付加した商品の創出と発信を行います。



② 世界指向「世界に向けてグローバルにひらく戦略」

都市経済の好循環を生み出すためには，今後も成長が見込まれるアジア新興国を中心とした海外市場の獲得が重要です。

工芸品や農林水産物の販路を国内外に積極的に開拓していくとともに，市内で開催される小規模イベントや会議・展示会等を国際級に育て上げ，外国人観光客の増加を実現します。また，海園および田園の恵まれた自然や，市街地の現代的な都市空間をさらに磨き上げることで，市民が世界に対して誇りを持てる都市を育みます。

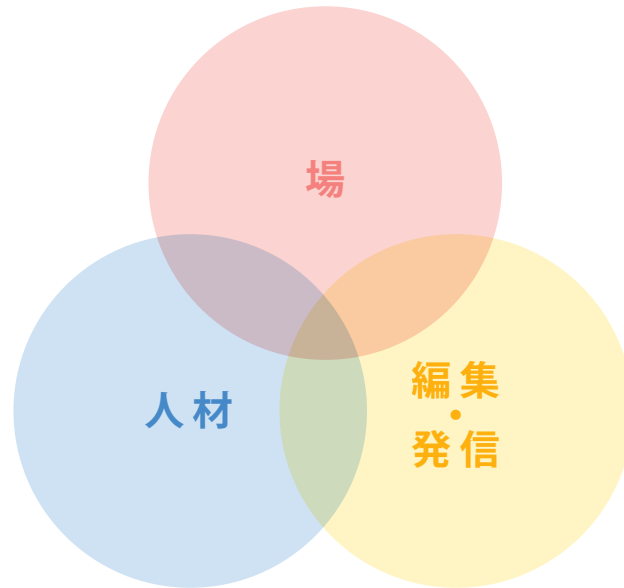
③ 未来指向「未来に向けてゆるやかに連携し，段階的に取り組む戦略」

創造都市の実現のためには，従来の縦割りではなく，同業種・異業種がゆるやかな横連携でつながり，直面する課題に対して協働で取り組むことが求められます。また，創造的な解決手法は一朝一夕に達成できるものではなく，試行錯誤を繰り返しながら，少しずつ前に進めていくことが大切です。

創造力と実践力のある人材がゆるやかに連携し，段階的に取り組むことで，創造都市を実現します。

第4章 創造的アプローチ

本市が創造都市を実現するためには、「創造的アプローチ」により施策・事業に取り組むことが求められます。創造的アプローチとは、創造的人材の集積と成長を通じて、従来とは異なる解決手法により、創造都市としての新しい価値観を創出する方法であり、具体的には「場の創出」「創造的人材の集積」「編集・発信」から成り立ちます。



1 場の創出

人を引きつける歴史的建造物や古い町並み、自然豊かな海園・田園を生かした空間づくりとともに、創造的人材が集まり、情報の共有できる拠点づくりを行います。また、行政と市民の対話の場づくりを創出・継続します。

創造的人材と市民が連携することで、新しい動きが生まれる仕組みをつくるとともに、四番丁スクエアなどを創造都市の拠点とし、創造的人材が集い、創造的人材を育成する場所づくりに努めます。



異業種交流空間創出事業の様子



四番丁スクエア（まちづくり学校文化祭）

2 創造的人材の集積

国内外の創造的人材の誘致を図るとともに、教育を通じた創造的人材の育成や、そのような教育が実現できる環境づくりに取り組みます。

高松に集い、暮らす創造的人材がこれからも高松で活躍するために、彼らの活動や作品作りがビジネスにつながるような支援を行うなど、創造産業としての振興を図ります。



創造支援センター（四番丁スクエア内）



フリーゼースクエア¹³

3 編集・発信

高松ならではの資源を活用した戦略的な国際交流や情報発信を通じて、高松ブランドの知名度向上に努めます。特に、市内で活躍する創造的人材に係る情報の県外・国外発信に努めます。

国内外の創造都市との連携により、互いの都市がともに成長していく相乗効果を生み出します。



「せとうち暮らし」



創造都市推進局のfacebook

13 ブリーゼースクエア

平成21年7月に商店街の空き店舗を活用して開設。地元商店主を中心に構成する「ブリーゼースクエア運営委員会」による施設で、高松市が活動を支援。商店街発のアニメイベント「キャラ☆フェス」など、集客力の高いイベントを手掛けるほか、流行に敏感な若者向けの情報発信等も行う。

第5章 推進に当たっての留意点

本ビジョンに掲げる戦略を推進するに当たり、次の5点に留意することとします。

1 PDCAサイクルによる進行管理

本ビジョン（総論および各論）を円滑に推進するため、PDCA（計画／Plan・実行／Do・評価／Check・改善／Action）サイクルによる進行管理を行います。

2 行政および民間双方における推進体制の拡充

創造都市推進のためには、行政だけでなく、民間においても強力な推進エンジンが求められます。高松市創造都市推進審議会および懇談会の委員等を中心にして、創造的アプローチによりプロジェクトに取り組む多数の市民団体の創出や育成に努めます。

また、民間と行政の若手が交流し、意見を出し合えるような交流の場を作り、活かし、いくとともに、民間から出たアイデアを活かす仕組みづくりに努めます。

3 段階的な社会実験¹⁴実施による試行錯誤の挑戦

直面する課題に対して、トライ＆エラーを繰り返し、ゆるやかな連携により解決策を模索することは、創造都市推進の大切な姿勢の一つです。社会実験の実施に柔軟に支援を行うとともに、社会実験の評価・助言を行います。

4 創造都市政策を実現する積極的な財源確保

創造都市政策を実現するためには、財源の確保が求められます。社会実験等の実施を求める声に対して、行政予算の確保に努めるほか、国等の創造都市に係る競争的資金の確保にも取り組んでいきます。

5 本ビジョンの見直し

ビジョンの期間は平成25年度から平成29年度までの5年間となっていますが、上記1～4を実施する中で、必要に応じて見直していきます。

14 社会実験 | 新たな施策の展開や円滑な事業執行のため、社会的に大きな影響を与える可能性のある施策の導入に先立ち、市民等の参加のもと、場所や期間を限定して施策を試行・評価するもので、地域が抱える課題の解決に向け、関係者や地域住民が施策を導入するか否かの判断を行うことができる。

資料編

1 推進ビジョン策定体制

本ビジョンの策定に当たり、高松市創造都市推進審議会および高松市創造都市推進懇談会（通称 U-40）を設置し、その内容を検討しました。



2 審議会および懇談会委員名簿

① 高松市創造都市推進審議会

区分	氏名	役職等	備考
学識 経験者	植松 由佳	国立国際美術館 主任研究員	
	佐々木 雅幸	大阪市立大学大学院創造都市研究科 教授	会長
	佃 昌道	高松大学・高松短期大学 学長	
	西成 典久	香川大学経済学部地域社会システム学科 准教授	
産業	荒木 永子	伝統工芸士（讃岐かがり手まり）	
	大久保 一彦	石彫トリエンナーレ実行委員会 委員	
	木村 葉月	香川県中小企業家同友会 理事	
	中 博史	高松商工会議所 副会頭	副会長
	中西 陽一	アジア太平洋盆栽水石大会高松実行委員会 理事	
	原田 和幸	高松市農業振興協議会 会長	
	三井 文博	NPO 法人アーキペラゴ 理事長	
文化 芸術	小西 智都子	ROOTS BOOKS 代表	
	橋本 一仁	四国学院大学社会学部カルチュラル・マネジメント学科 教授	
観光	三矢 昌洋	高松ホテル旅館料理協同組合 理事長	
	藪内 由佳	NPO 法人しおのえ 代表理事	
スポーツ	大西 努	高松市体育協会 理事長	
公募 委員	瀧澤 邦子		
	徳増 育男		
	広野 亜由美		
	松山 千恵子		

(敬称略 各区分 50 音順)

②高松市創造都市推進懇談会

区分	氏名	役職等	備考
産業	辻 佳 宏	高松青年会議所 理事長	
	中 筋 康 人	FM高松 815 執行役員局長	
	中 田 大 輔	中田漆木 漆職人	
	中 村 卓 史	むれ源平石あかりロード実行委員会 事務局長	
	花 澤 美智子	花澤明春園	
	英 誠一朗	四国新聞メディア事業部	
	人 見 訓 嘉	コピーライター, クリエイティブディレクター	会長
	広 野 亜由美	野菜ソムリエ	
	真 鍋 康 正	香川ニュービジネス協議会 副会長	
文化 芸術	甘 利 彩 子	特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク 事務局長	副会長
	鎌 田 直 子	NPO法人 農村歌舞伎祇園座保存会事務局	
	長 田 亜 子	株式会社デューク「まちうたプロジェクト第2弾プロデューサー」	
観光	香 西 志 帆	映画監督	
	西 成 典 久	香川大学経済学部地域社会システム学科 准教授	
スポーツ	星 島 郁 洋	高松ファイブアローズ 代表取締役社長	
	山 家 春 香	香川県体育協会クラブアドバイザー	

(敬称略 各区分 50 音順)

3 策定経過

① 審議会

日程	審議会	内容
平成 24 年 9 月 30 日	第 1 回審議会	○創造都市について ○高松市が目指す創造都市の姿
平成 24 年 11 月 17 日	第 2 回審議会	○創造都市として目指すべき方向性
平成 25 年 1 月 27 日	第 3 回審議会	○高松の潜在的魅力 ○現状と課題の整理
平成 25 年 3 月 23 日	第 4 回審議会	○創造都市推進ビジョン（総論）骨子案検討
平成 25 年 5 月 19 日	第 5 回審議会	○主なプロジェクトの検討① ○市民意識調査（案）検討
平成 25 年 7 月 7 日	第 6 回審議会	○主なプロジェクトの検討②
平成 25 年 7 月 28 日	第 7 回審議会	○主なプロジェクトの検討③ ○推進に向けて ○創造都市推進ビジョン最終案の確認・検討 ○今後の策定工程確認



② 懇談会

日程	懇談会	内容
平成24年11月30日	第1回懇談会	○創造都市を推進する取組アイデア①
平成25年1月24日	第2回懇談会	○創造都市を推進する取組アイデア②
平成25年4月9日	第3回懇談会	○美術館カフェの検討 ○創造都市を推進する取組アイデア③ (交流空間・スポーツ)
平成25年5月24日	第4回懇談会	○美術館カフェの検討 ○創造都市を推進する取組アイデア④ (交流空間・食)
平成25年6月19日	第5回懇談会	○創造都市を推進する取組アイデア⑤ (生活工芸・祝祭)
平成25年7月11日	第6回懇談会	○創造都市を推進する取組アイデア⑥ (国際会議・こども)

③ ヒアリング調査

平成24年10月22日～11月17日、高松市創造都市推進審議会の主な委員12名、および創造都市の推進に係る関係者4名に対して対面ヒアリング調査を実施しました。

創造都市推進に係る現状と課題、取組アイデアについて回答していただきました。

4 付随資料

① 創造都市ネットワークの7分野と参加都市一覧

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）は、文化の多様性の維持に向けた全世界的な包括提携の枠組みとして、2004年に「創造都市ネットワーク」を創設しました。このネットワークは、創造産業の振興に関する知識と経験、技能・技術を共有することで、国際的にこれまでにはない創造的な経済を育てることを目的としており、平成25年7月現在、7分野34都市が認定されています。このうち、日本からは金沢市（クラフト＆フォークアート¹⁵分野）、名古屋市、神戸市（以上、デザイン分野）の3都市が認定されています。

分野	参加都市（国名）
文学	エディンバラ（イギリス）、メルボルン（オーストラリア）、アイオワシティ（アメリカ）、ダブリン（アイルランド）、レイキャヴィーク（アイスランド）、ノリッチ（イギリス）
映画	ブラッドフォード（イギリス）、シドニー（オーストラリア）
音楽	セビリア（スペイン）、ボローニャ（イタリア）、グラスゴー（スコットランド）、ヘント（ベルギー）、ボゴタ（コロンビア）
クラフト＆フォークアート	サンタフェ（アメリカ）、アスワン（エジプト）、金沢（日本）、利川（韓国）、杭州（中国）
デザイン	ブエノスアイレス（アルゼンチン）、ベルリン（ドイツ）、モントリオール（カナダ）、名古屋（日本）、神戸（日本）、深圳（中国）、上海（中国）、ソウル（韓国）、サンテティエンヌ（フランス）、グラーツ（オーストリア）、北京（中国）
メディアアート	リヨン（フランス）
食文化	ポパヤン（コロンビア）、成都（中国）、エステルズンド（スウェーデン）、全州（韓国）
現在申請中の日本の都市	札幌、新潟、浜松

¹⁵ クラフト＆フォークアート クラフトは民芸、工芸のことで、主に手づくり品のこと。フォークアートは土地固有の文化から生まれたアートであり、農業や商業など、生業や労働と深く結びついたものが多く、実用的・装飾的である。

②創造都市ネットワーク日本

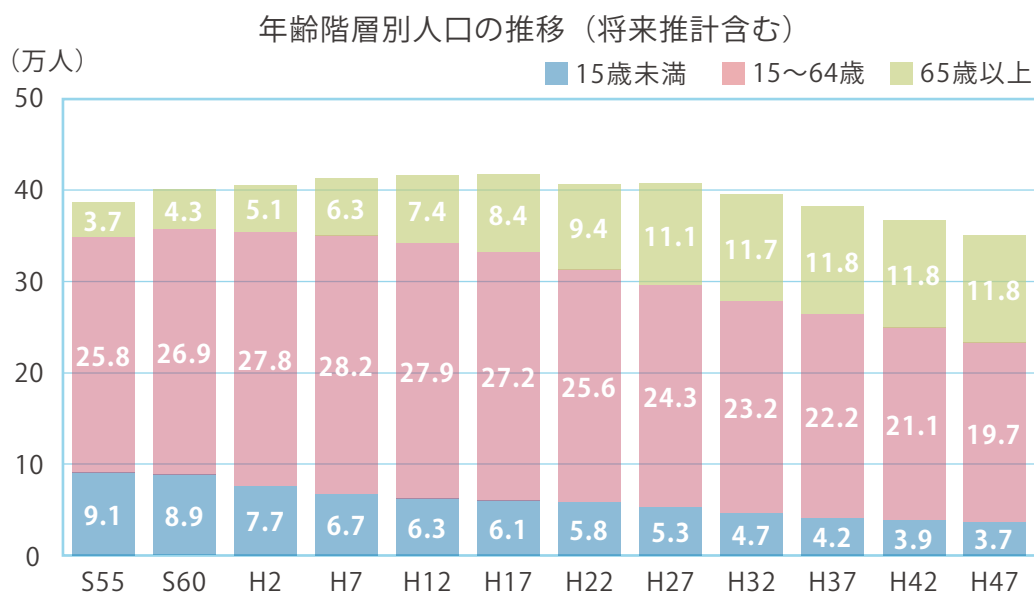
創造都市の取組を推進する（または推進しようとする）地方自治体等多様な主体を支援するとともに、国内および世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォーム¹⁶として、平成25年1月13日に「創造都市ネットワーク日本」が設立され、本市を含め22都市が参加しています。

③高松市の特徴

●人口と世帯の推移

平成22年の人口は約42万人、世帯数は約17万世帯であり、ともに増加傾向にあるものの、人口は勢いが鈍化しています。

平成27年に人口が減少傾向に転じると推測されますが、一方、65歳以上の老年人口は増加傾向にあり、平成37年には高齢化率が3割超を占めます。



16 プラットフォーム | 鉄道駅のホームのように、何かを推進する時の基本的な環境・設定や受け皿となるもの。

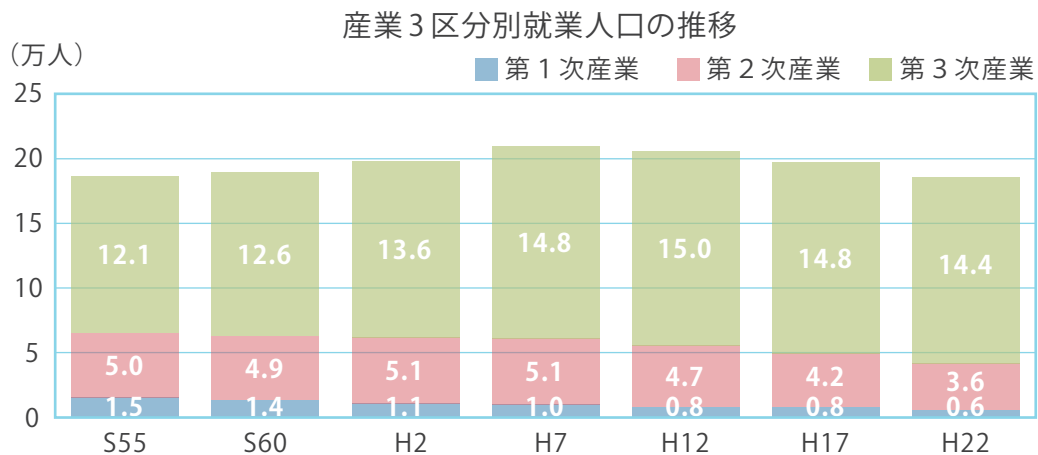


●就業者数と事業所数の推移

平成 22 年の就業者数は約 19 万人であり、平成 7 年の約 21 万人をピークに、減少傾向にあります。

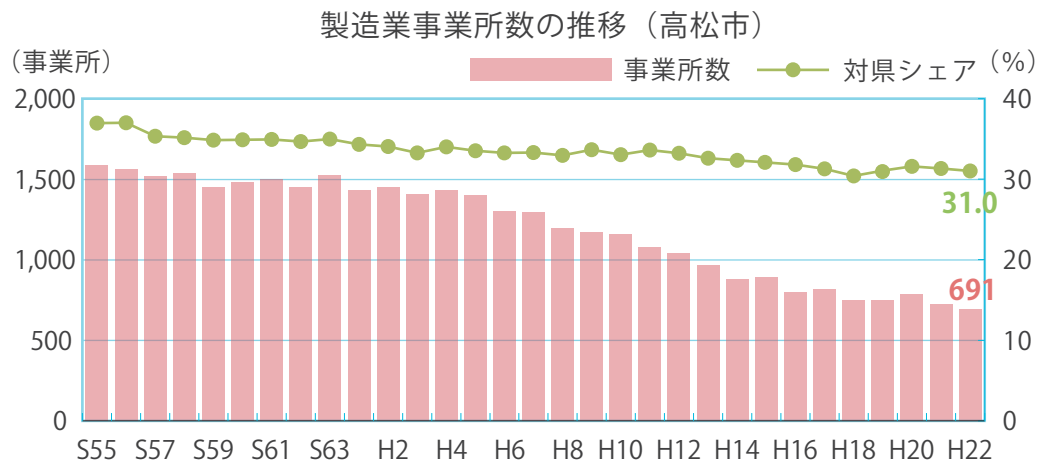
産業 3 区分別では、第 3 次産業の構成比が増加傾向にあり、平成 22 年は約 3/4 を占めます。産業大分類別では、卸売業・小売業が約 4 万人で最も多くなっています。

平成 18 年の新設事業所は約 1,900 事業所、廃業事業所は約 4,200 事業所であり、廃業事業所は新設事業所の約 2.2 倍となっています。

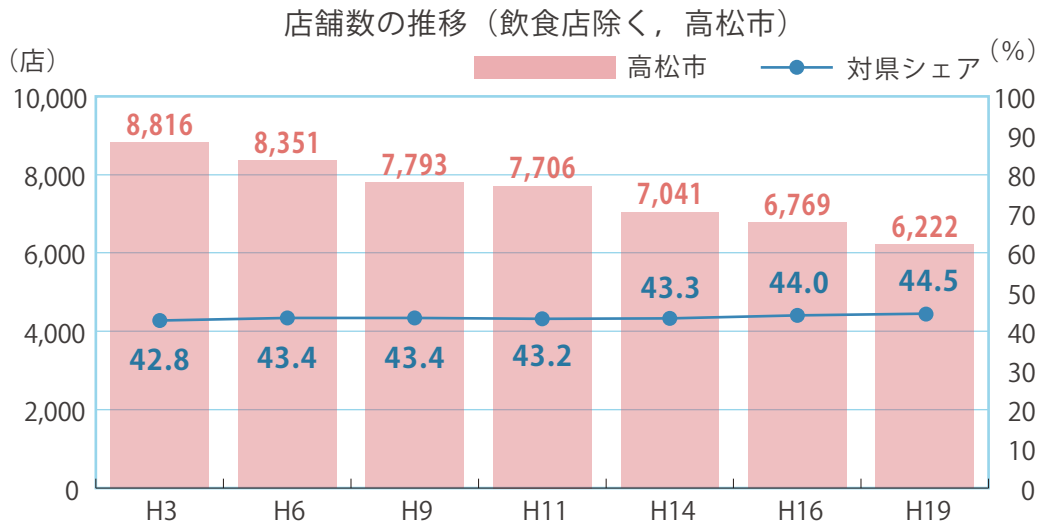


●産業別の実態

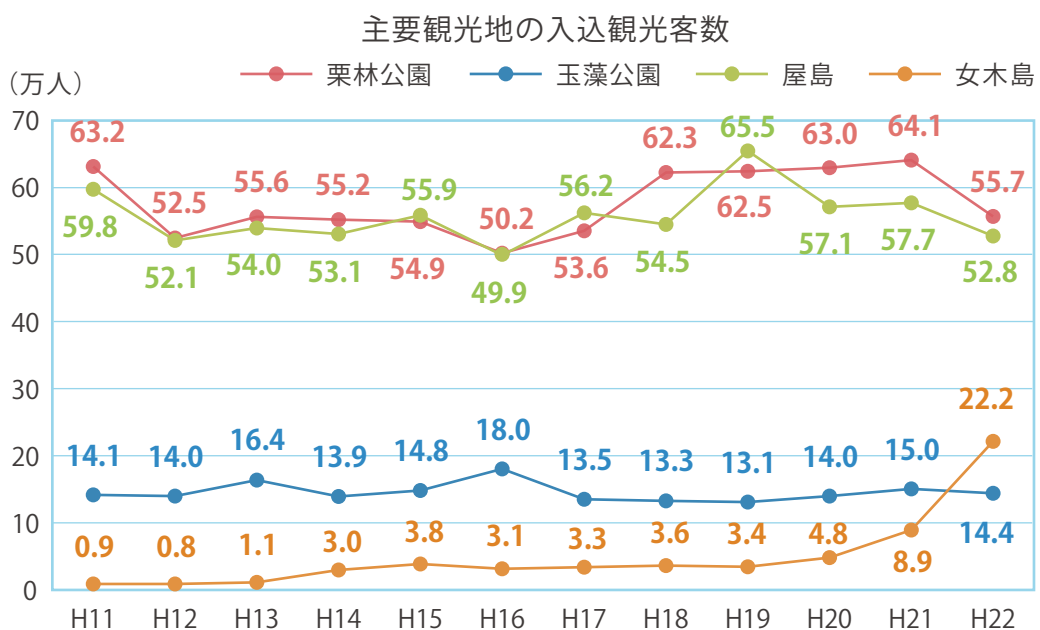
平成 22 年の製造業事業所数は 691 事業所であり、減少傾向にあります。産業中分類別では、食品が 105 事業所で最も多く、次いで金属製品が 102 事業所、窯業・土石が 91 事業所です。



平成 19 年の店舗数は約 6,200 店、従業者数は約 5 万人で減少傾向にあります。年間販売額は約 2 兆 9,000 億円です。



平成 22 年の入込観光客数は、栗林公園が約 56 万人、屋島が約 53 万人です。女木島は約 22 万人であり、平成 22 年開催の瀬戸内国際芸術祭の効果もあり、前年度比約 250% 増となっています。



2013-2018



高松市創造都市推進ビジョン

発行：平成25年10月

高松市創造都市推進局 産業振興課

〒760-8571

高松市番町一丁目8番15号

TEL (087)839-2411 FAX (087)839-2440

E-mail shoukou@city.takamatsu.lg.jp

